

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液・細胞・排泄物など）を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテや保管されている試料（血液・細胞・排泄物など）を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

重症敗血症性ショック患者の背景や治療実態、予後を観察する登録研究

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院救急科

【研究責任者】 邑田悟（救急科 病院助教）

【研究代表者】 川副友（東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座救急医学分野 助教）

【研究の目的】

日本における敗血症性ショック患者に対する様々な治療実態を明らかにし、同時に患者背景や予後を評価することで、敗血症性ショック患者の有効な治療を探索することを目的とする。

【研究の方法】

適格基準

- 1)2019年7月以降に、ICUに入室した患者
- 2)18歳以上の患者
- 3)新規の感染により敗血症性ショック：十分な輸液投与の後も平均血圧 $\geq 65\text{mmHg}$ を維持するために昇圧剤が必要であり、かつ持続する乳酸高値($>2\text{mmol/L}$)になった患者
- 4)敗血症の診断から24時間以内にノルアドレナリン投与量 $\geq 0.2\mu\text{g}$ を要するものを満たす患者

研究方法

上記適格基準を満たした患者に関し、診療上得られたデータを用い、および、ICU退室時に同意を取得しえた症例に関しては、90日時点において本人および家族へのアンケート調査を行い、90日時点におけるエンドポイントに関する情報(生命予後、社会復帰、BI、SMQ、IES-R)を入手する。本研究は、重症敗血症性ショック患者における患者背景や治療内容、予後を広範に収集し、各要因間の関連を探索する観察研究であり、項目の全てを暴露及びアウトカムとして取り扱う。

【共同研究について】

この研究は、他の病院や研究施設と共同で行っています。対象となる患者さんのデータ/試料は、匿名化されて、特定非営利活動法人臨床評価研究所に送られます。多くの情報を解析することで、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

<情報の管理責任者> 特定非営利活動法人 臨床評価研究所

代表者 粉川 洋幸

担当者 大鳥居 麻希子

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院救急科 邑田悟

791-0295 愛媛県東温市志津川

Tel: 089-960-5722